

国語 2026 年度松商短期大学部 一般選抜 A 出題の意図

第1問は養老孟司の評論『バカの壁』から、第2問は朝日新聞デジタル配信の精神科医・斎藤環へのインタビュー記事から出題した。いずれも現代社会において「わかる」という行為や、人と人との関わり方を捉え直す内容であり、本文の論旨に沿って筆者・話者の言葉づかいを正確に押さえる力を見るねらいで題材を選んだ。

第1問の出題文は、同じ映像を見ても男子学生と女子学生で受け取り方が大きく異なるという具体例を通して、人間が「わかっている」と思い込むことの問題と、知識と常識の違いを論じたもの。本問では、漢字の読み書き、空欄補充、傍線部の内容説明、本文の主張に合致する発言の選択などを通して、論理的文章を正確に読み取り、筆者の主張を客観的に把握する力を多角的に問うている。日常的な経験と結びつく題材でありながら、抽象度の高い概念を扱う文章であり、十分な読解力と語彙力が求められる。

また、第2問の出題文は、新型コロナウイルス感染拡大下の外出自粛をめぐって「会うことは暴力である」と述べたインタビュー記事。「コロナ時計」や「会うことの暴力性」といった特徴的な比喩を用いて、ひきこもりや在宅勤務の意味を捉え直す内容であり、話者独自の概念規定を文脈に即して正確に押さえる力が必要となる。本問では、空欄補充、傍線部の理由説明・抜き出し問題、傍線部の内容説明の選択などを通して、対話形式のインタビュー記事を読み解く力と、比喩表現に込められた意味を読み取る力を見ている。